KOIKEYA

■CIロゴマーク コンセプト

六角形は、これまでの湖池屋のコアバリュー「親しみ」「安心」「楽しさ」に
「本格」「健康」「社会貢献」を加えた新生湖池屋のコアバリューを表現しています。

KOIKEYA

2019

環境・CSR報告書

湖池屋が大切に考えること

湖池屋が大切に思うことは、
自然豊かな日本の大地の恵みに感謝して
緑を育み、土や水とともに歩むこと。
持続可能な社会のために、商品を通してお客様と一緒に
環境に取り組んでいくことです。

代表取締役会長
小池　孝

代表取締役社長
佐藤　章

湖池屋の環境理念

私たち湖池屋は、独創的で心の満足度の高い商品、サービスを提供するとともに、
地球環境、人々の健康、豊かな社会づくりに貢献します。

湖池屋の環境行動指針

1 環境関連法規及びその他の要求事項を遵守するとともに、自主基準を設定し、事業活動に取り組みます。

2 事業活動による廃棄物の削減及び再資源化、省資源、省エネルギーを推進するとともに、地球環境に負荷を与える物質の削減に取り組みます。

3 環境に配慮した原料・資材調達、商品開発、生産に努めます。

4 環境保全のための社会貢献活動に取り組みます。

5 環境教育を通じ、環境保全に対する意識向上を図るとともに、全社員が環境意識を持って行動します。

持続可能な開発目標（SDGs）

**株式会社湖池屋は、国際社会の一員として、
持続可能な開発目標（SDGs）に賛同し、
「食」を通じて、より良い国際社会の実現に貢献・応援します。**

持続可能な開発目標（SDGs）とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のためのアジェンダ」にて記載された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。貧困や環境など17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない（leave no one behind）」ことを誓っています。途上国の開発課題が中心だったMDGsに比べて、SDGsは持続可能なエネルギーの利用拡大、海洋資源の保護、気候変動対策など発展途上国、先進国を問わず、ユニバーサル（普遍的な）取り組みを求められる目標も多く盛り込まれています。

環境・CSR報告書について

【対象期間】年間実績データは、2018年度（2018年4月～2019年3月）について報告しており、一部対象期間外も含まれております。
【対象範囲】本報告書の対象組織は湖池屋の国内事業となります。湖池屋の海外事業、外部協力工場は除いております。
※本報告書に記載したデータはお断りなく変更する可能性もありますのでご了承ください。

食の安全・安心への取り組み

湖池屋はお客様に安全・安心な商品をお届けするため、品質方針に基づき、原材料の調達から製造、流通、販売に至るまでの全ての部門において、安全・安心な商品作りに取り組んでいます。

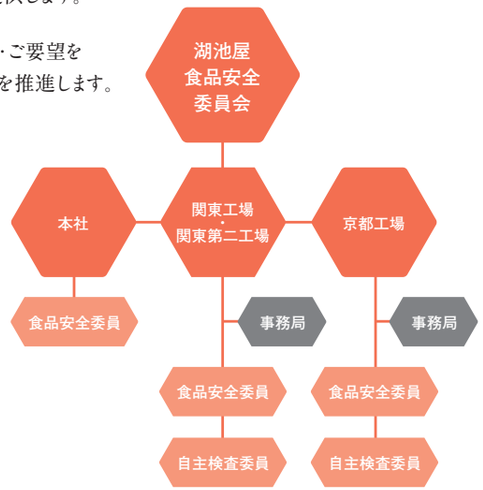
8 働きがいも経済成長も

12 つくる責任 つかう責任

15 陸の豊かさも守ろう

湖池屋 食品安全・品質方針

1. 常にお客様の健康を考えた「おいしい、楽しい、満足度の高い」商品を真面目につくり続けます。
2. お客様の立場になって、安全で安心できる商品・サービスを提供します。
3. すべての法令・規制要求事項を遵守し、お客様からのご指摘・ご要望を真摯に受け止め、品質向上の努力を惜しまず、継続的に改善を推進します。
4. 食品安全・品質方針の達成のために食品安全マネジメントシステムの継続的改善に努めるとともに、マネジメントレビューを通じて定期的に見直します。
5. 食品安全・品質方針を全ての従業員に周知させると共に、ホームページ等を通じて広く社外に向けて発信します。
6. 食品マネジメントシステムの構築、運用及び見直しに関し、必要な社内及びフードチェーンとのコミュニケーションを充実させ、常に信頼される企業であるよう製品の安全性に関わる情報を的確に提供します。
7. 食品安全・品質方針を達成するために毎年食品安全目標を設定し、実施し、見直し、改善を行います。



［ 湖池屋 食品安全委員会組織図 ］

日本産じゃがいも100%のこだわり

湖池屋ではポテトチップスの原料として、日本産生じゃがいもを100%使用しています。じゃがいもは、南は九州から北は北海道まで全国各地で栽培されておりますが、産地によって収穫時期が異なります。5月下旬より九州での収穫が始まり、8月中旬からは北海道へと至ります。収穫時期を示すラインが北上していく様子は「じゃがいも前線」と表現されることもあります。高品質のじゃがいもを安定的に確保するため、定期的に産地を訪問し、じゃがいもの生育状況や収穫状況のチェックを実施しております。また、生ものであるじゃがいもを保管するため、受入時に品質検査を実施しており、貯蔵に耐えうる品質の選定をすることで、安定した商品を提供し続けられるよう、努めています。湖池屋は、1962年の「湖池屋ポテトチップス のり塩」発売以来、日本のポテトチップスの老舗として、日本産じゃがいも100%にこだわり、57年間に亘ってポテトチップスを作り続けてきました。これまで培ってきた歴史と伝統を継承しながら、日本のポテトチップスをさらに進化させるべく、湖池屋はこれからも新たな挑戦を続けていきます。

100%
Made in Japan

キタヒメ　ワセシロ　スノーデン　オホーツクチップ　トヨシロ

湖池屋の森を作っています

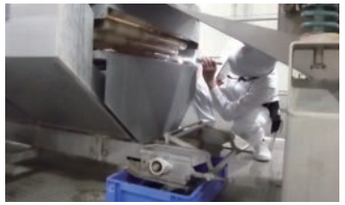
湖池屋では、2009年12月にふらの農業協同組合との業務提携で「シレラ富良野工場」が稼動したことを機に「ほっかいどう企業の森林づくり」に参加し、南富良野町の町有林において森林保全活動を実施しています。2015年1月より、第3期の取り組みとして、下刈りを主体とした森林整備を行っています。

【事業名】 ほっかいどう企業の森林づくり
【場　所】 南富良野町(町有林)
【期　間】 第1期:2009年／第2期:2010年～2014年／第3期:2015年～2019年

AIBフードセーフティについて

安全・安心な食品を製造するため、湖池屋では、2008年よりAIBフードセーフティ指導・監査システムに基づいた取り組みを推進しております。

AIB Food Safety System



清掃活動

［日常清掃の実施］

日勤のラインや交代勤務のラインなど、生産終了時には、自動洗浄機や温水での洗浄も含め、清掃手順書に基づいて、しっかりと清掃を行っています。

［定期清掃の実施］

マスタークリーニングスケジュールを作成し、定期的に本格的な清掃を工場全体で実施しています。普段、清掃が困難な高所や生産機械の奥の奥まで徹底的に清掃を行っています。

有害生物の管理

飛翔性昆虫、歩行性昆虫、そ族などの有害生物に対し、毎月のモニタリングおよび週1回の点検から対策を講じ、食品への危害をなくすべく努力を行っています。

異物混入対策

HACCPの導入により、異物管理装置を製造ラインの各所に設置しています。特に、ストレーナーや金属検出器はプログラム化し、管理を徹底しています。

アレルゲン混入対策

アレルゲン物質が含まれるシーズニングなどの原料については、アレルゲン物質とそうでない物質を分けて管理するなどの対策を実施しています。

食品安全の国際認証である「FSSC22000」を取得

2017年5月、株式会社湖池屋 関東工場（第2工場含む）及び京都工場において、食品安全の国際認証であるFSSC22000の審査に合格し、認証を取得しました。

関東

登録事業所	株式会社湖池屋 関東工場、関東第2工場（〒347-0063 埼玉県加須市久下1615）
初回認承日	2017年5月8日
認証番号	3836002
登録範囲	プラスチックパッケージ入りスナック菓子の製造及び包装ならびに清涼菓子の包装
認証機関	ビューローベリタスジャパン株式会社

京都

登録事業所	株式会社湖池屋 京都工場（〒622-0024 京都府南丹市園部町千妻マカリ1-1）
初回認承日	2017年5月8日
認証番号	3836003
登録範囲	プラスチックパッケージ入りスナック菓子の製造
認証機関	ビューローベリタスジャパン株式会社

FSSC22000は、GFSI（世界食品安全イニシヤティブ）が認める食品安全規格の一つです。FSSC22000は、前提条件プログラム（食品安全手順）の要求事項であるTS22002とマネジメントシステム（経営体制）の要求事項であるISO22000の2本立てで構成されています。FSSC22000認証を取得することにより、食品安全マネジメントシステムを構築し、永続的に安全な商品を提供し続ける仕組み作りを目指し、企業理念にもある、「常に安心できる商品を提供し、地球環境、人々の健康、社会貢献を心掛ける」を推進して参ります。

社会貢献への取り組み

湖池屋は、豊かな社会の実現とその持続に貢献するため、40年以上に渡って協賛会社として運動に参加しているベルマーク教育助成運動をはじめ、お菓子を通じた社会貢献活動に取り組んでいます。

国連WFPへの協力

湖池屋は「食」に携わる会社として「飢餓のない世界をつくる」という国連WFP協会の理念に賛同し、2012年より継続して協力をしています。今年度は、国連WFPの実施する「WFPエッセイコンテスト2019」、「WFPウォーク・ザ・ワールド2019」に協賛しました

(C) Mayumi Rui

国連WFPレッドカップキャンペーンに参加しています

昨年度に引き続き、湖池屋では、国連WFPのレッドカップキャンペーンに賛同し、「湖池屋ポテトチップスのり塩5個パック」におきまして、売上の一部を国連WFPに寄付しました。寄付金は国連WFPの「学校給食プログラム」に役立てられます。

【キャンペーン参加商品】
湖池屋ポテトチップスのり塩5個パック

［学校給食プログラムとは］
途上国の学校で無償で栄養価の高い給食を提供することにより、子どもたちの健全な発育を助けると同時に就学率・出席率の向上に寄与する支援です。

［レッドカップキャンペーンとは］
今、世界には飢餓で多くの幼い命が失われていること、食べるために働いて学校に行けない子どもたちがまだまだいること、この状況を多くの人に伝え、一人でも多くの子どもたちに学校給食を届けるためのキャンペーンです。国連WFPが給食を入れる容器として使っている赤いカップが、キャンペーンのシンボルとなっています。

地球の飢餓を救え。
WFP
国連世界食糧計画

https://www.jawfp.org/redcup/

WFPウォーク・ザ・ワールドに参加しました

途上国の子どもたちの飢餓をなくすためのチャリティーウォーク「WFPウォーク・ザ・ワールド2019」に社員有志で参加しました。参加費の一部が国連WFPの学校給食プログラムに役立てられます。

ベルマーク教育助成運動

ベルマーク教育助成運動は1960年に「すべての子どもに等しく、豊かな環境の中で教育を受けさせたい」そんな願いを込めて始まった、50年以上の歴史を持つ運動です。湖池屋は、教育助成運動であるベルマーク運動に賛同し、お菓子を通じて広く教育に貢献するため、1977年から40年以上にわたり、協賛会社として運動に参加しています。現在までの累計寄付金額は約3億2,000万円に上ります。湖池屋商品に親しみを感じていただき、楽しみながらベルマークを集めていただくために、様々な取り組みを実施しています。

累計寄付金額
約3億2,000万円

地域スポーツ振興（東京エクセレンス）

湖池屋の本社は東京都板橋区にあります。板橋区に本社を構える地元企業として、東京都板橋区を中心に東京を本拠地として活動するB.LEAGUE所属のプロバスケットボールチーム「東京エクセレンス」に協賛しています。「東京エクセレンス」の主催試合として板橋区・小豆沢体育館で実施するゲームにおいては、来場者サンプリングやイベント協賛をするなど、会場を盛り上げています。

地域スポーツ振興（湖池屋杯）

関東工場、京都工場ではそれぞれの工場のある埼玉県加須市、京都府南丹市で活動している少年野球チームを対象に「湖池屋杯」を実施しています。地域の少年野球活動を通じて、地域住民の方々との交流を深めています。

JAPAN PRIDE PROJECT

「KOIKEYA PRIDE POTATO」シリーズが2018年2月に一周年を迎えたことを機に、さらなる究極を目指し、「日本の誇り」である風土・文化やそれらが生み出す素材を「KOIKEYA PRIDE POTATO」に込めて発信するプロジェクトである「湖池屋 JAPAN PRIDE プロジェクト」を始動しました。日本が世界に誇る文化・歴史遺産として、2017年に世界遺産登録された「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群を祝福・応援する意味を込めまして、“宗像”の風土・文化、それらが生み出す素材を「KOIKEYA PRIDE POTATO」に込めた「JAPAN PRIDE POTATO 九州焼のり醤油」を2018年6月に発売。2年目となる2019年5月には、古代より大陸への航路上にあった沖ノ島及び大島と九州本土を守護するために祀られた宗像三女神にちなみ、宗像市が掲げる『海への感謝』をテーマに「JAPAN PRIDE POTATO 焼のり醤油」を発売しました。さらに、2019年6月には、日本のオリーブ栽培発祥の地として、また、豊かな自然に育まれた食材やカルチャー・アートで注目される観光地として人気の高い小豆島で育まれた素材を活かした地域活性化に貢献したいとの思いから「JAPAN PRIDE POTATO オリーブソルト」を発売しました。

湖池屋は、日本のポテトチップスの老舗として「湖池屋 JAPAN PRIDE プロジェクト」を推進し、「日本の誇り」である風土・文化や、それが生み出す素材を「KOIKEYA PRIDE POTATO」に込めて発信していきます。

環境への取り組み

湖池屋は、環境保全を意識した企業活動に取り組んでいます。
持続可能な自然環境の保全のため、省エネルギー、省資源、廃棄物削減、
容器包装改善など、様々な取り組みによって環境負荷の低減に努めています。

7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに
12 つくる責任 つかう責任
13 気候変動に 具体的な対策を

■ CO_2排出量の削減（省エネ活動）

生産部門	中期目標	具体策2015年～2018年度
関東工場 関東第二工場	第一計画期間（平成23～26年）において6％削減、第二計画期間（平成27～令和元年）において13％削減、第三計画期間（令和2～6年）において20％削減を達成する。	■ ボイラー・蒸気配管の断熱強化 ■ ボイラー等、発熱生設備表面の断熱強化 ■ 照明のLED化 ■ スチームトラップ診断及び更新 ■ 温廃水の熱交換利用 ■ ガスコージェネレーションシステムの導入による消費エネルギー削減 ■ 省エネ型空調機更新 ■ ガス式コージェネレーション
京都工場	地球温暖化防止条例に基づき、第一計画期（平成23～25年）、第二計画期（平成26～28年）、第三計画期（平成29～31年）の其々の計画期において年率2％の削減を達成する。	

■ 廃棄物の発生抑制とリサイクル

生産部門	中期目標	具体策
関東工場 関東第二工場 京都工場	廃棄物の発生抑制	■ 生産ロスの削減 ■ 返品の削減

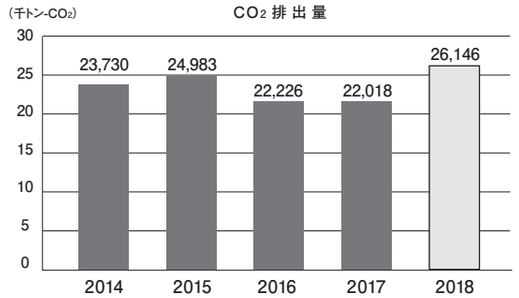
配管保温の強化

蒸気配管の断熱

事務所廊下照明のLED化

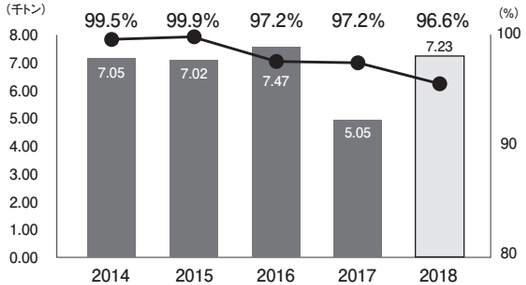
■ CO_2排出量

湖池屋の各工場及び事業所においては、エネルギーの効率的利用に取り組み、CO_2排出量の削減に努めています。2018年については、生産状況の変化と猛暑による夏季の電力使用の増加により、2017年と比較して上昇しました。省エネ設備機器の段階的導入、工場各所及び事業所各所において省エネ対策を進めることで、今後も継続してCO_2排出量削減に取り組んでいきます。



■ 廃棄物の発生量とリサイクル（関東工場、関東第二工場、京都工場）

湖池屋の各工場では、どうしてもリサイクルすることのできない石などを除き、発生した食品廃棄物等のリサイクルに努めています。生産状況の変化により発生量の増加がありましたが、2018年の再生率は昨年に引き続き再生率96.6%という高水準を維持しています。



■ 省エネ設備機器の導入によるCO_2の削減

湖池屋では地球温暖化の原因であるCO_2排出量削減のために、灯油から都市ガス・天然ガスへの転換を図りました。関東工場、関東第二工場、京都工場の転換工事が完了し、今後も省エネルギー設備の導入を計画的に進めていきます。

ガスボイラー

ガスタンク

ポテトチップスができるまでとリサイクル

今年度の再生率

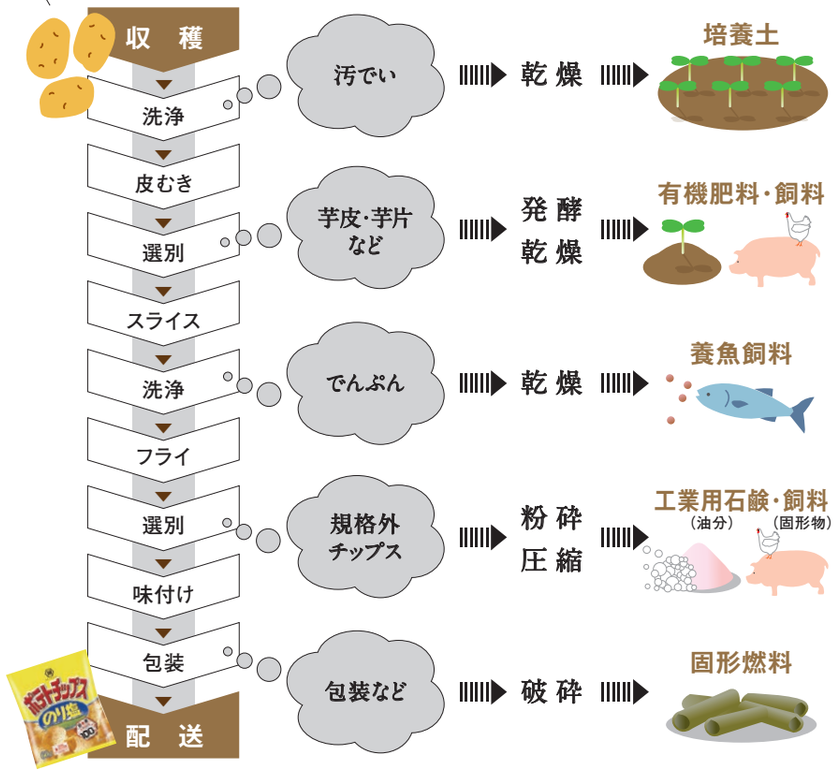
96.6%

ポテトチップスができるまでには、いろいろな廃棄物が発生します。
食品廃棄物や中間生成物は、可能な限り再生利用に取り組んでいます。

※再生率とは、
食品循環資源の再生利用の実施量 ÷ 食品廃棄物等の発生量＝食品循環資源の再生利用等の実施率で表されます。

Potatochips Recycle line

大地のエネルギーがつまったじゃがいも



じゃがいもを選別する工程

スライスしたじゃがいもの洗浄

ポテトチップスの選別

ポテトチップスの味付け

湖池屋マテリアルフロー（※委託先除く）

営業販売関連	燃料使用量 ガソリン	196kℓ	CO_2排出量 CO_2	455トン
物流配送関連	燃料使用量 軽油	1,556kℓ	CO_2排出量 CO_2	4,022トン

IN INPUT（原材料）

容器包装材料	包装フィルム	3,049 トン
	紙類	10,671 トン
エネルギー使用（原油換算）	電気	4,606 kℓ
	LPG	7 kℓ
	LNG	3,309 kℓ
	灯油	9 kℓ
	都市ガス(13A)	5,850 kℓ
水の利用	水道	19,429 m^3
	井水	578,602 m^3

OUT OUTPUT（廃棄物）

食物残さ（芋皮・屑等）	3,443 トン
包装用フィルム等	234.7 トン
［中間生成物］でんぷん	1264.8 トン
［CO_2排出量］CO_2	26,146 トン
［水系排出量］公共下水	595,474 m^3

製品販売数

4.6億袋

※消費…製品販売数は販売実績から推計したもので、実測値ではありません。
※物流・配送…物流は全体給油量から燃費量の平均値を算出して工場から配送センターまでの走行距離、走行回数、車種で計算しており、実測値ではありません。
※製造…エネルギーは「エネルギーの使用の合理化に関する法律」に基づく原油換算係数を使用して算出した値を掲載しています。
水系排出量は実測値ではなく、汚でい量や最終製品の出来高などから推定したものです。

従業員との関わり

湖池屋は、独創的でユニークな商品で「おいしさ」と「楽しさ」を提供するため、社員の自主性を尊重し、各自の個性や能力を活かしながら、いきいきとやりがいをもって働ける職場環境作りを目指しています。

5 ジェンダー平等を実現しよう
8 働きがいも経済成長も
10 人や国の不平等をなくそう

人権を尊重した公正な採用

人材採用の際には、基本的人権を尊重し、国籍・性別・年齢などによって有利・不利がないよう、公正な採用を実施しています。社内においては、差別などが生じないよう、人権に関する継続的な意識啓発に取り組んでいます。

個性と能力を活かす人材の育成

湖池屋には様々なバックグラウンドを持った人材が働いていますが、個性や能力の伸長を目的に、各自の成長段階に応じた教育・研修の機会を提供しています。

その他にも、一人ひとりの成長意欲をサポートできる教育・研修機会の充実を図っています。

職位別	【入社時】 ■ 新入社員研修 ■ 新入社員フォロー研修 ■ 中途入社社員研修	【管理職・総合職】 ■ 管理職昇格アセスメント ■ 思考力強化研修 ■ 新任管理職研修 ■ ストレスマネジメント研修	【全社員向け】 ■ ストレスチェック ■ 従業員意識調査 ■ 自己啓発支援制度　他
職種別	【営業部門】 ■ 営業マネジメント研修 ■ 営業力強化研修 ■ 営業力提案力強化講座	【企画開発部】 ■ マーケティング研修	【生産部門】 ■ 製造強化研修

社内での環境・CSR教育

「環境」・「CSR」について知る・考えることを目的に、当社において実施した「環境」・「CSR」に関する活動をイントラネットなどで公開し、社員間での情報共有を図っています。また、新入社員に研修を実施し、「環境問題」や「CSR活動」に対する理解を深めています。

ダイバーシティの推進

湖池屋は、多様な人材の活用を進めることを目的にダイバーシティを推進しています。新卒採用においては、採用者に占める女性割合がここ3年間の平均で約5割に上ります海外大学生や外国人留学生の採用実績もあります。また、その他においても、地域限定社員の採用や定年退職者の再雇用、海外法人における現地人材の採用など、多様な人材の活用を推進しています。

ワークライフバランスの推進

充実感を得ながら働き、仕事の責任を果たす一方で、育児・介護など個人の時間も充実した健康で豊かな生活を実現するため、湖池屋では仕事と生活の調和（ワークライフバランス）を推進しています。2017年には、人事制度を改定し、ライフイベントに応じて、キャリアを選択できるようになりました。2018年から、働き方・業務改革PJが始まり、副業の解禁、カジュアルデーの開始、等々、働きやすい環境を整備することに努めております。

work-life balance

安全衛生の取り組み

労働安全衛生法の定めに従い、職場における安全と健康を確保し、快適な職場環境の構築を図っています。月1回実施されている衛生委員会においては、設備・作業におけるリスク低減や心身の健康をテーマに討議がなされ、各職場の業務特性や実情にあった取り組みが進められています。ストレスチェックは、毎年全社員が実施するとともに、ここ数年は、従業員意識調査により、職場の課題に関する調査も実施し、環境改善に取り組んでおります。

湖池屋の活動状況

従業員数	851名（2019年6月30日現在）
資本金	2,269百万円
売上高	33,765百万円（2019年6月期）
工場拠点	関東工場　関東第二工場　京都工場 シレラ富良野（JAふらの業務委託）

株式会社湖池屋

〒175-0094 東京都板橋区成増五丁目9番7号
TEL.03-3979-2115
https://koike-ya.com